

杉並区民は黙ってはいない！

3月16日、施設再編計画や使用料の見直しについて考える、住民手作りのシンポジウムが開催されました。集まったのは児童館やゆうゆう館等の利用者、あんさんぶるの財産交換に反対する住民や地域の商店会長な

ど多彩なメンバーです。区民の声の7割が否定的意見

そもそも区主催の住民説明会から本計画への批判は殺到。パブリックコメントや区長へのハガキなど区に寄せられる声の7割が批判的意見

次々と住民団体が立ち上がる！

計画を知った区民や関係者が次々に運動を始めています。児童館廃止問題で児童館を守る会が発足し、児童館や学童クラブの職員が問題を指摘する声明を発

表。阿佐ヶ谷地域の施設再編を考える会、あんさんぶるの会、科学館の存続を求め運動など多彩な運動が発足が続いています。区民無視のトップダウン政治に杉並区民は黙っていません。

怒！ 区民をあざむくデータの使い分け

杉並区はこの間、『老朽施設の莫大な改修改築経費』と『急激な人口減少・少子高齢化による税収減』のため区立施設再編と使用料値上げはやむを得ないとしてきました。しかし、それらの根拠は成り立たないことが議会で明らかになっています。

杉並の少子高齢化はほとんど進まない！

30年後に杉並区の人口は15%減少し、高齢者は二倍に増えて人口の4割を占める。区は国立社会保障人口問題研究所が作成した驚くべきデータ(グラフ①)を示し、急激な税収減と社会保障費の支出増が押し寄せるために施設削減が必要だと訴えています。ところがこのデータには、都市部の人口増加傾向という実態

が反映されていないと各方面から問題が指摘されています。実際、区は三年前にも区独自の将来人口推計というものを発表していましたが、ラフ②が、そこでは少なくとも20年間は人口減少や少子高齢化があまり進まないというのです。都市整備や保健福祉分野など区が作成するほとんどの計画は、急激に少子高齢化はしないとする区独自の推計に基づいて作られています。再編整備計画と使用料の値上げ計画だけはあえて急激な少子高齢化を示すデータを用いて住民の不安をあおる。こんな政治手法が許されているのでしょうか。

とても豊かな区財政

杉並区には『柔軟性のある予算』(毎年自由に使える予算)というものが年200億円弱も存在し、これは全都っぴレベルです。区民生活は厳しさを増す中、区財政は潤っているという本末転倒の状態が続いています。これを原動力に、区長はいま税金を550億円で貯める「財政のダム」づくりを進行中です。区民の中には「荻窪駅周辺まちづくりなど大型開発にそうのた財政が使われるのではなか？」との声が出ています。不要不急の貯め込みや大型開発よりも、今こそ暮らしや福祉に豊かな財政力を集中させるべきです。

改築経費で財政危機にはなりません

老朽施設の改修改築のピークが訪れ、そこに巨額の経費がかかる。区は区民を脅かします。たしかに改修改築のピークは訪れますが、通常よりも増える支出は杉並区の総予算2600億円のたった1.5%です。けっして区政を揺るがす巨額の経費とは言えません。

区民の声を耳を傾ける気なし

区民意見の7割に及ぶ否定的意見のうち、田中区长は「区民の概ねの理解を得た」と言い張り。さらに住民説明会に参加した区民を、何の根拠もなく「政治的思惑をもった住民が動員される」旨の発言を行い、議会でも問題と取り上げられました。使用料の見直しについてはパブリックコメントさえ実施せずに議会に提案するなど、暴走に暴走を重ねています。

田中区长「政治力」カネ問題

今、議会では田中区长の政治資金にたいする注目が高まっています。田中区长が毎年開催する政治資金パーティーの発起人に、区内の補助金受領団体や区の事業受託業者の代表者等が含まれていたことが明らかになったのです。法律に触れないとはいえ、社会的・道義的に大きな問題があることは間違いありません。田中区长自身、都議時代に政治資金パーティーを批判する質問を行っており、区民への説明が必要となっています。

区財政

杉並区には『柔軟性のある予算』(毎年自由に使える予算)というものが年200億円弱も存在し、これは全都っぴレベルです。区民生活は厳しさを増す中、区財政は潤っているという本末転倒の状態が続いています。これを原動力に、区長はいま税金を550億円で貯める「財政のダム」づくりを進行中です。区民の中には「荻窪駅周辺まちづくりなど大型開発にそうのた財政が使われるのではなか？」との声が出ています。不要不急の貯め込みや大型開発よりも、今こそ暮らしや福祉に豊かな財政力を集中させるべきです。

「区立施設再編整備計画」「使用料等の見直し」とは何か？

児童館を3分の1に減らして機能を変えてしまうほか、ゆうゆう館を違う施設に転用し、科学館や湯の里杉葉を廃止。阿佐ヶ谷区民センターや産業館を廃止して杉一小に複合化する計画、あるいはあんさんぶるの荻窪を国の税務署跡地と財産交換する計画を「区立施設再編」と称して強引に進めています。また、同時に教育委員会も、20校に及ぶ小中学校のあらたな統廃合計画の指針を発表しています。

「使用料等の見直し」ではこれまで区民登録団体が施設利用料を半額としてきた制度を廃止。あらたな使用料算定も行われるため、例えば体育館は1650円(2時間全面)が5900円と3.6倍に跳ね上がります。

地方自治法は、すべての住民が健康で文化的な生活がおくれるよう、公共施設を設置することを定めています(244条)。ところが区は“あの施設には税金がいくらかかっている”、“あの人はいくら税金を使っている”などと、住民同士を争わせ、施設削減や使用料値上げを進めています。住民サービスの削減ではなく、区立施設の発展を区民と進めることこそ区民の責務です。

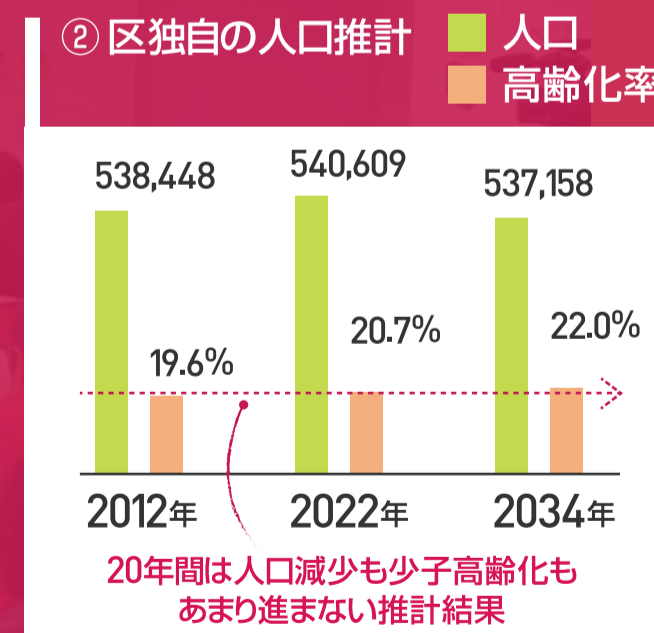
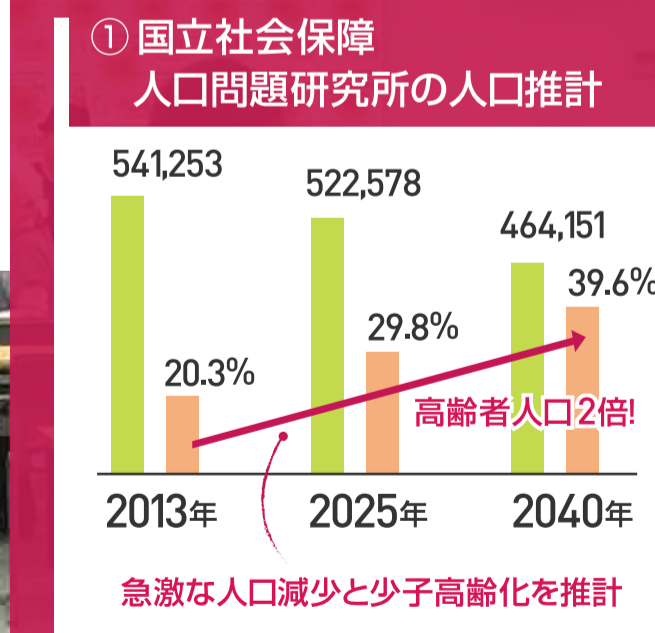
「区民の概ねの理解を得た」

説明会に来たのは「政治的思惑をもった住民の動員」



区民意見の7割に及ぶ否定的意見のうち、田中区长は「区民の概ねの理解を得た」と言い張り。さらに住民説明会に参加した区民を、何の根拠もなく「政治的思惑をもった住民が動員される」旨の発言を行い、議会でも問題と取り上げられました。使用料の見直しについてはパブリックコメントさえ実施せずに議会に提案するなど、暴走に暴走を重ねています。

今、議会では田中区长の政治資金にたいする注目が高まっています。田中区长が毎年開催する政治資金パーティーの発起人に、区内の補助金受領団体や区の事業受託業者の代表者等が含まれていたことが明らかになったのです。法律に触れないとはいえ、社会的・道義的に大きな問題があることは間違いありません。田中区长自身、都議時代に政治資金パーティーを批判する質問を行っており、区民への説明が必要となっています。



あんさんぶる

環境や地域の子育てに配慮するなど、みんなで8年も話し合って作った施設。これを一方的に潰すなんてひどすぎる！

児童館

元気なときも苦しいときも児童館はいろんな気分に合わせた、いろんな世代の居場所となる。子どもの居場所は削っちゃいけない。

科学館

理科教育推進の全国先駆けとなった施設。生涯学習の場としても大事な。発展こそすれ、なくすなんてとんでもない

使用料値上げ

お花の教室をしているが、ます区民会議室の廃止で割高の施設に追いやられた。さらに使用料が2倍なんて...もう続けられない!

